

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こどもプラス糸満教室				公表日	令和8年4月30日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	15	0	活動によって部屋を変えたり、参加人数を分けて調整したり工夫しています。	今後も活動内容や参加人数に応じて空間を調整し、安全で十分なスペースを確保できるよう工夫していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	15	0	活動内容（外出、運動、制作）に応じて職員配置を調整しています。	常に配置基準を満たしていますが児童の特性や支援ニーズの変化に応じ、継続的に配置体制を見直す必要があります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	15	0	活動内容に応じて空間を区切り、少人数グループで使用しています。静と動のエリアを分けて刺激量を調整しています。	利用児童が多い日は空間にゆとりが少なくなる時間帯があります。児童数や職員数に応じて見守りの仕方や活動内容、活動範囲を工夫しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	15	0	毎日の清掃、消毒。活動ごとにスペースを整理し切り替えを明確化できるようにしています。常に換気を行うなどし感染症拡大防止を行っています。	季節に応じた環境調整の工夫が必要です。物品増加による収納スペースの工夫が必要です。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	15	0	クールダウンできるようなスペースを確保しています。個別支援が必要な場合は静かな場所へ移動できる体制を取っています。	必要に応じてクールダウンスペースで個別対応をすることもあります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	4	定期的な会議や振り返りの機会を設け、共有ノートを作成し全職員が共通認識できるようにしています。	より多くの職員が主体的に参画できるよう意見を出しやすい体制づくりを行っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	保護者評価を実施し、その結果を職員間で共有の上、改善策を話し合っています。	改善内容と対応状況を分かりやすく文書化し、保護者へフィードバックする仕組みを作っています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	0	日常的に意見交換の場を設け現場の声を取り入れています。	発言しやすさに個人差があるため、意見収集が偏る可能性があります。定期的な個人面談などを行い意見の吸い上げを行っています。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	15	0		改善計画を策定し進捗管理表を用いて定期確認を行うなど、現状を改善する意識を高めています。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	15	0	運動療育支援員の研修や内部の療育研修を実施し学びを共有しています。	年間研修計画の明確化と受講履歴の管理を行い、研修内容が実践でどの程度反映されているのかを検討していきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	15	0	事業所の基本方針に基づき年間、月間の運動支援プログラムを作成しています。内容は定期的に見直しを行っています。	プログラムの実施後の振り返りを共有し、次の月や年間計画へ反映する仕組みを作っています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	15	0	面談や観察記録を基にアセスメントを実施しています。育ちが育まれるよう保護者ニーズを踏まえながら支援目標を設定しています。	半年ごとに見直しを行い、職員間でケース会議を行っています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	15	0	計画作成時は会議を実施し、支援に関わる職員間で情報共有と意見交換を行っています。検討内容は記録に残しています。	計画作成時は常に情報共有を行っています。全職員間の共通理解の深化の為、日々の支援内容や意見交換の内容を記録に残しています。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	15	0	支援計画は職員全員に周知し、日々の申し送りで行進状況の確認を行っています。支援記録により実施状況を確認しています。	支援計画は職員間で共有しているが、日々の記録や目標との連動性を高め、進捗状況をより明確に把握できるようにしていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	15	0	面談や行動観察記録、発達状況の整理を通して多面的に状況を把握しています。評価内容は記録し支援計画作成時の資料として活用しています。	AIを活用し計画と日々の支援に一貫性を持たせるなど、専門的視点+最先端の技術を用いてアセスメントなど評価基準に違いが生じないよう統一性が図れる体制を整えています。

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	0	児童発達支援ガイドラインを踏まえて「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域連携」の視点を盛り込み、必要項目を整理したうえで具体的な支援内容を設定しています。目標、支援方法、評価時期を記載しています	支援内容と評価結果の関連性をより明確にできるようにし達成度が客観的に判断できる方法へ改善をしていきます。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	0	活動プログラムは職員間で協議してから立案し役割分担を明確にして実施しています。実施後は振り返りを行い、次回の計画へ反映しています。	活動のねらいと目的、個別支援計画との関連をさらに明確化し、活動効果の検証を行う仕組みを強化していきます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	15	0	児童の興味関心や発達状況を踏まえて内容を見直しています。月に1回運動活動ミーティングを行い新たな活動を取り入れています。	活動評価を記録として残しています。今後もさらに内容が改良されるようにプログラム見直しを仕組み化していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	15	0	個々の発達状況を踏まえ、個別活動と集団活動を組み合わせた支援計画を作成しています実施状況は記録し定期的に見直しています。	活動ごとの達成度を明確にし、個別目標との関連性をより具体的に示せるようにAIを用いた記録の方法で整理しています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	0	支援開始前に必ず打ち合わせを行い、当日の支援内容、配慮事項、役割分担を確認しています。申し送り事項の共有も行っています。	打ち合わせ内容や記録を保管しており、今後も支援の質の均一化と振り返りに活用できる体制を整備していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	15	0	終礼の際に児童の様子等変化を報告する等にて振り返りを行っています。	振り返りの内容は共有ノートへ記載し、個別支援計画作成にも繋げています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	15	0	日々の記録をしっかりと残しており、支援会議にて共有・改善に繋げています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	15	0	定期的にモニタリングを実施し、児童の発達状況や目標達成度を確認しています。必要に応じて支援計画を見直し、口頭やアプリなどで保護者と共有しています。	モニタリング結果をより可視化し、計画の見直しの根拠を明確にすることで支援の質の向上を図っていきます。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	15	0	児童の状況をよく理解している職員が担当者会議へ参加し、日常の様子や支援経過を具体的に共有しています。関係機関との共通理解を図り、支援方針の統一に努めています。	事業所内で会議内容の共有をさらに強化し、全職員が支援方針を共通認識として持てる体制づくりをより一層強化していきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	0	必要に応じて関係機関と情報共有を行い、多角的な視点から支援を検討しています。保護者の同意のもと、支援内容の共有を行い継続性のある支援につなげています。	連携が個別ケースの対応が中心となっている場合もある為、定期的な情報交換の機会について検討していきたいです。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	他機関利用児については情報共有を行い、支援の方向性が統一されるよう努めています。	関係機関との情報共有方法を整理し、より計画的な連携体制を築いていくことが課題です。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	0	就学を見据え、生活面や集団活動への適応を意識した支援を日常療育の中で行っています。保護者と情報共有を行いながら就学準備を進めています。	小学校との情報共有について移行時期に応じた連携方法を整理し、より円滑な引き継ぎ体制を整えていきます。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	9	6	地域の児童発達支援センターや関係機関と定期的に情報共有やケース会議例などの場に参加し支援の向上に努めています。	参加する職員に偏りがあるため、新職員も参加できるような機会を作りたい。交流機会を増やしていきます。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	11	4	現時点では保育所や幼稚園との直接的な交流事業は実施していませんが、地域公園での運動活動を取り入れ、地域とこどもたちと自然に関わる機会を大切にし社会性や集団参加の経験に繋がる支援を行っています。	現在行っている地域活動を基盤とし、事業所でイベントを企画するなど地域交流へ発展させていくことが課題です。	

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	15	0	送迎時の口頭での共有やハグアプリ・LINEなどの連絡ツールを活用し、日々の様子や成長の変化を具体的に伝えている。定期的なモニタリングや面談を実施し、発達状況や課題について保護者と共通理解を図りながら支援方針を確認しています。	情報共有が事業所からの発信中心になりやすい為、保護者の意見や気づきをより引き出せるような仕組みづくりを検討していく必要があります。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	0	現時点では、家族に対しての研修機会を設けていませんが、日常的な相談対応を通じて家庭での関わり方についての助言や情報提供を実施しています。	まずは、小集団の研修会を開催するなど保護者が参加しやすい形で情報提供方法を検討していきます。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	0	契約時に資料を用いながら説明を行っています。不明点が生じた際には随時説明を行っています。また利用負担額が上がる前には丁寧な説明を行っています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	15	0		児童の最善の利益を大切にしながら、こどもの思いや意思をより丁寧にくみ取り、保護者に寄り添った計画作成の充実を図っていきます。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	15	0	児童発達支援計画を提示しながら支援内容を具体的に説明し、保護者の理解を得た上で同意をいただいています。	支援計画はアプリの中で保護者と共有し、いつでも閲覧できるようにしています。アプリの閲覧申請が分からない保護者には丁寧な案内、説明をしていきます。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	15	0	送迎時や面談等を通じて相談に応じています。必要に応じて個別面談を実施し助言や情報提供を行いながら保護者支援に繋がっています。	仕事が忙しく面談の時間を設けられない、直接会えない保護者に対しての関係づくりが課題です。他の連絡方法でアポを取り関係づくりの強化を検討していきます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	3	12	現時点で、父母の会は設置していませんが、今後保護者同士で交流する機会を設けていきます。	活動プログラムの内容紹介を行いながら、保護者同士の親睦が図れるような交流会の開催を検討していきます。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	15	0	相談しやすい環境づくりを心がけ相談や申し入れには丁寧に対応しています。申し入れがあった場合は午前中に面談日を設定し、複数職員で相談の対応する体制を整えています。	面談の実施について保護者への周知が十分ではないため、案内方法を見直し相談しやすい体制づくりを進めていきます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	15	0	通信や連絡ツール、ブログを活用し、活動内容や予定連絡体制等の情報発信を行っています。	必要な情報発信の内容を見直し・改善を行いより分かりやすく周知していく工夫をしています。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	15	0	施錠できる棚に書類を保管や、職員間でも個人情報の取扱いには気を付けています。	個人情報の取り扱いについて定期的な確認、職員間での共有を行います。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	15	0	連絡帳やアプリ、送迎時の共有を活用し保護者との情報伝達を丁寧に行い安心して相談できる関係づくりを心がけています。	保護者への情報発信が一方向的にならないよう相談しやすい機会や双方向でのやり取りをさらに充実させていきます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	8	地域との関わりを大切に、近隣への配慮や挨拶、地域の施設利用や行事に参加を行うなど、地域に開かれた事業所運営を心掛けています。	現状では地域住民との交流が限られている為、地域行事への参加や事業所行事への招待など、地域との関わりを広げていきます。
非 常 時 等 の 対	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	15	0	各種マニュアル整備および発生を想定した訓練は実施しながら安全意識の向上に努めます。	事務所にて保管をしている為、保護者への周知には課題があります。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	0	業務継続計画も作成・更新を行っており、2回避難訓練を実施しています。	非常時をより具体的に想定した訓練内容の充実を図り職員全体の対応力の向上を継続していく必要があります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	15	0	契約時に確認を行い、頓服で薬の服用依頼があった際には服薬依頼書に記入して頂き、職員間にて共有をしています。	情報共有は行っているが、急な体調変化にもより迅速な対応ができるよう確認体制の継続的な見直しを行っていく必要があります。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	0	事前に保護者へ確認を行っており、オヤツなどではアレルギーが混入していないか確認をしています。	アレルギー情報の共有をより確実にする為、定期的な確認や職員への周知方法をさらに強化していきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	0	安全計画も作成しており適宜更新及び点検を行っています。	職員全体への理解をより深める為、定期的な見直しの機会を充実させていきます。

応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15	0		安全に関する取り組みについて、保護者への周知方法を増やしていきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	0	記録に残す事で職員間にて共有し、再発防止に努めています。	ヒヤリハットを記録に残し、職員間での共有を継続していきます。記録内容や振り返りの機会をさらに充実させていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	0	定期的に動画研修を視聴を行う事で適切な対応が行える様に心がけています。	日々の支援に活かせるよう継続的な研修内容の確認と職員間での情報共有を続けていきます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	15	0	身体拘束の事例が発生した際には法人内の身体拘束適正化委員会にて対応を協議しています。	身体拘束に関する共通理解の強化を図っていきます。